氏　　名：渡辺　健
所　　属：工学部電気電子工学科　１年
派遣大学：インドネシア　ガジャマダ大学
派遣期間：２０１５年９月３日～９月２０日

◎日本語教室

　ガジャマダ大学農学部棟の教室を一つ貸していただき、平日１０：００～１１：３０、１３：３０～１５：００の時間帯でやらせていただきました。ガジャマダ大学生だけでなく他の大学生も授業に来てくれました。またボランティアとしてガジャマダ大学に留学している立命館大学の皆さんもお手伝いとして来てくれていました。

＜指導内容＞

・参加人数や学生さんのレベルに合わせて２グループ(beginner,advance)作り、分担しながら授業しました。

～beginner クラスでは~

・基本的なあいさつ、自己紹介、曜日、天気、数字
・将来の夢
・動詞（普段頻繁に使うもの）
・名詞（職業、建物、教科、体の部位、スポーツ）
・形容詞（人の性格、自分の感情）
・肯定文、疑問文、否定文の言い方
・東京観光に行ったときに使える道案内
・その他生徒さんからのリクエスト

平仮名とローマ字を使い例文を書いて、それを声に出して言ってもらいました。平仮名、ローマ字がまだ分からない生徒さんにはまた個別に対応し、教えました。

～advance クラスでは～

・日本の都市案内（東京、大阪、京都、山形）
・日本のダジャレ作り
・漢字検定をやっていってどこまでの級ができるかにチャレンジ
・漢字の部首を教えて、後々一人一人にテストする
・漢字の意味の説明
・ジョグジャカルタの社会問題
・あて数字：０２３（お兄さん）、０１０３（おとうさん）、０４８７（押し花）など
・なぞなぞ
・その他生徒さんからのリクエスト

主にホワイトボードを使い、書いて説明したりしました。リズムゲームを取り入れて関連するものを答えていくことによって語彙力も増やしていきました。

◎教室外での交流活動

授業が終わった後は、昼食や夕食に連れていかれることが多かったです。ガジャマダ大学の学生さんでなくても親切で、休日になると行きたいと言えばいろんなところに連れて行ってくれました。あちらの学生さんのほとんどが英語が堪能で、日本語も堪能な人もたくさんいます。またインドネシア語を教えてほしいと言うと喜んで教えてくれます。

◎プログラムに参加した感想

サマープログラム（集中講義「蔵王でミニワールド」）を終え、そのまま留学生の皆さんと一緒にジョグジャカルタに行くという行動計画だったのですが、ジャカルタでの飛行機の乗り換えなど不安なことがたくさんありました。しかしインドネシアの学生さんや立命館大学の学生さんがいたからこそ、ジョグジャカルタに来ることができて、日本語クラスをし、様々な所へ行って、素晴らしい体験をすることができました。

日本語クラスにおいて私は「先生」と呼ばれ、先生としてしっかり教えなければならないという責任感と９０分授業をするのがこんなにも大変であることを思い知りました。単位取得とかも関係なしに、ただ日本のことを学びたいという生徒さんの意識の高さも伺えました。改めて自分自身の大学での講義の受け方を考えさせられました。

私は本プログラムを通じて、より一層勉学に励み、日本人としてもっと日本のことを知ろうと決意しました。インドネシアでできた友人たちとのつながりを大切にしていきます。

◎目標の達成度、努力した経緯

私の目標としてコミュニケーション英語などで使ったテキストを復習し、身に着けてからインドネシアに行くとあったのですが、実際現地でガジャマダ大学の英会話サークルに連れていってもらったときに討論の時間があり、なかなか発言できない自分がいました。

後々から、テキストに載っていたフレーズが使えたのではないかと気づくときがありました。日本語クラスのリクエストの時など英語で話しかけられたときなどなかなか聞き取れなかったり、単純に知らない単語だったりしたときもありました。

紙に書いてもらったり、辞書を使ったり、ほかの人に聞いたりと様々なことをしました。あちらの学生さんは英語で何とか伝えようと何回も言い方をかえてきたりと英語に関する積極性というものをすごく感じ取ることができました。もちろん彼らの母国語は英語ではないのですが、流暢にしゃべることができる人もたくさんいました。どうやって英語を覚えているのか聞いてみた所、ある学生さんはスマホの言語設定を英語に変えて使っているということでした。毎日何とかして触れていこうとする姿勢を私はとても感じ取ることができました。やはりコミュニケーションをとるためにも英語は必要なのでこれからもしっかりと取り組んでいきたいです。

◎今後の展望

本プログラムで私が感じたことは英語は国境を超えるということです。現地の言語をしゃべることができたらそれがベストなのですが、自分がいままで習ってきた英語を使うことによって世界中の人々とコミュニケーションをとれるのだなと感じました。もっとうまく話せたら！もっと多く語り合えたなら！と思い、それらができればもっと仲間が増え、自分自身の世界観をもっと広げることができます。また今回日本語クラスをする中でインドネシアの社会問題についても学ぶことができました。私が将来インドネシアのためにできることは電気のインフラ整備なのではないかと考えました。再び、私がインドネシアに帰ってくるときにはインドネシア語も覚え、少しでもお役に立てる人間になりたいです。